

『夢中になって問い続ける生徒の育成 ～教科の本質に迫る授業の工夫を通して～』

これを受けて、本校数学科の研究テーマを

『教科の本質に迫る数学科授業の工夫』

と設定しました。

また、数学科が目指す「夢中になって問い続ける生徒」の姿とは、  
たとえば



- 納得のいくまで課題に取り組み、他の人に分かりやすく説明しようとする
- 目的に応じて数、式、図、表、グラフを活用しつつ、論理的に考えようとする
- これまでに学んだことを活用して、統合的・発展的に考えようとする
- 新たな問いを立て、さらに追究しようとする

という姿です。

そのために、私たちは

学習課題と学習展開の工夫に取り組みます

(1) 学習課題の工夫

- ① 問いの視点を整理し、生徒が追究したくなるような課題づくりを行います。

【問いの視点】

- ① 「なぜそうなるのか？」
- ② 「本当に正しいと言えるのか？」
- ③ 「他の方法はないか？」
- ④ 「決まりや規則性がないか？」
- ⑤ 「もっと簡単にできないか？」
- ⑥ 「条件を変えたらどうなるか？」
- ⑦ 「結果からどんなことが分かるか？」
- ⑧ 「共通点はないか、まとめられないか？」

そして、その課題を

- ② 3年間を見通して位置づけ、つながりを意識した系統的な指導を行います。

なぜ、この折り方で折り紙が三等分できるんだろう？



相似では説明できそうにないな…

(2) 新たな問いにつなげるための振り返り

- ① 3つの視点を参考にした振り返りすることで質の高い新たな問いへとつなげます。
- ② レポートなど、生徒が問いを追究する場を設定します。